



光ぞ晴れた

所在地 〒950-3343
新潟市北区上土地亀
4981番地
TEL 025-387-2412

<http://www.kousei.city-niigata.ed.jp/>

E-mail j108kousei@city-niigata.ed.jp

光晴中学校生の姿～学びの視点から～

学習指導部長 五十嵐良和

今年度の春に3年生が受けた全国学力・学習状況調査の結果から、実施教科である国語、数学の学力についてお伝えします。また、光晴中学校では具体的な分析と今後の授業で生徒の学力向上をどのように目指していくのかを検討しました。その結果も併せてお伝えします。

全体の傾向として無回答が多いように感じられました。特に問題文が長いと、難易度の低い問題でも無回答が多い傾向がありました。授業では、一問一答形式の問題だけでなく、長い問題文の課題に取り組める姿勢と学力を育てます。そうすることで、安易に正解にたどり着けない問題には取り組めない生徒に、自ら解決への方法を模索し、既習事項等を用いて思考を巡らせ、課題解決を目指せる力の育成を目指します。具体的には、試行錯誤を行い、工夫する場面を多く設定していきます。

保護者の皆様からは「じっくりと課題に向き合い、解決への道筋を考えること」が大切な学びであることをご理解いただき、生徒を励ましていただければ幸いです。

今年度実施教科となった国語、数学の2教科同様、他の教科においても生徒の実態に即しながら、求める学力をどのように定着させるのかを教科部内で検討し、日々の授業で実践しています。定期テスト等で点数として表れる学力の他にも、興味や関心をもって主体的に学習に取り組もうとしている姿勢や自分の考えをまとめる力、実技などで実際にパフォーマンスできる姿も大切な学力として捉え、指導を行っています。

ご家庭でも、授業でどのような学習をしているのかや、得意教科・苦手教科についてお子さんと話をしていただけると幸いです。

国語の結果と分析

本校の平均正答率は56%で、新潟県57%・全国58.1%をわずかに下回っています。内容別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は県や全国を上回りましたが（県比+3.8%・全国比+2.4%）、「話すこと・聞くこと」では大きく下回っています。（県比-7.7%・全国比-7.8%）

例えば右に下回り率の大きかった大問1を紹介します。この問題は、「フィルターバブル現象」に関する話し合いの資料を基に出題されています。

このようなタイプの課題を授業で取り扱うことがほぼないため、「フィルターバブル現象」という聞き慣れない言葉とともに、生徒はかなり戸惑ったと思います。今後の課題としては、新聞などを活用したり、資料を分析したりする学習を取り入れ、多様な課題に対応できる力を養うことです。

国語の力は日常生活の中で培われるものです。本校の生徒の「知識・技能」が高かったのは、読書習慣や学んだことを活用する姿勢にあると思います。家族や友達と会話する中で、知識は広がり思考力は鍛えられていきます。

1 山崎さんたちは国語の辞時間に【フィルターバブル現象の資料】をもとに、グループで話題を決めて話し合っています。次の【フィルターバブル現象の資料】と【話し合いの一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【フィルターバブル現象の資料】

〈図〉

〈解説〉

インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。

例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

(文部科学省ウェブページによる。一部改変。)

【話し合いの一部】

山岡さん: 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん: 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん: 〈解説〉の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん: 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

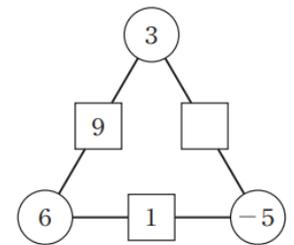
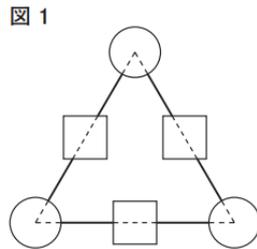
数学の結果と分析

「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の4つの領域の問題において、「関数」領域の平均正答率が最も高く（52.3%）、「図形」領域の平均正答率が最も低かったです。（33.0%）。最も平均正答率が高かった問題は、以下の問題です。（平均正答率 87%）

6 次の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1ずつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

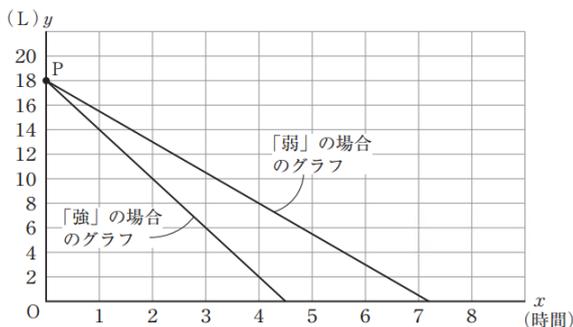
(1) 下の図の□に入る整数を求めなさい。



逆に最も平均正答率が低かった問題は、以下の問題です。（平均正答率 11%）

ストーブの使用時間と灯油の残量

「強」の場合の式 $y = -4x + 18$
 「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$



(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

結果から、一問一答形式で問われた問題については比較的すぐに解答を導くことができるが、問題文を正確に読み取り、論理的に思考し、説明することが苦手な傾向が強いことがわかります。また、記述式の問題については無回答の割合も高いことから、最初から問題に取り組むことをあきらめてしまう生徒が多いようです。この要因の一つとして、基本的な学習内容の定着が不十分であることが挙げられます。数学的な説明に必要な計算や文字の表し方、図形の性質などがしっかりと身につけていないと、そもそも問題に取り組むことができません。

以上の分析を踏まえて、日々の授業では、下記の3点について取り組みます。

- ①ドリルや反復練習を取り入れて基礎・基本の定着、習熟に努めます。
- ②仲間と自分の意見を話し合ったり、ノートに自分の考えを表現するような問題解決の場を積極的に取り入れた授業を1つの単元の中で必ず実施できるように、授業を工夫します。
- ③単元テストや定期テストの中で、思考・表現に関する問題を設定し、実践的な問題解決の力が身に付くように促します。

特に計算のスキルは、個人によって定着の差が大きいのが実情です。ご家庭でも教科書や数学ワークなどを活用して、毎日こつこつと取り組んでスキルアップに努めるなど、ご協力をいただきたいです。